

# 武術太極拳

WUSHU TAIJIQUAN 1991年11月号 No. 23

## ●編集・発行

社団法人 日本武術太極拳連盟  
JAPAN WUSHU TAIJIQUAN FEDERATION

〒102 東京都千代田区五番町14 光文書院ビル5階

TEL 03 (3265) 9494 FAX 03 (3265) 9550

郵便振替 東京 9-180187

●発行日 1991年11月1日(毎月1日発行)

●定価 1部 200円

年間購読料 2,400円(送料込)

## 41の国地域から430人が北京に 第1回世界選手権

### 日本健闘 金2、銀6、銅4を獲得 全員入賞

第1回世界武術選手権大会は10月12～16日に中国・北京市の首都体育館で開催され、国際武術連盟(IWF)に加盟する43カ国・地域のうち41の国・地域から選手286人と関係役員を含め計430人が参加して盛大に挙行された。

#### 中国に次ぐ好成績

この大会で、日本は男子太極拳で伊藤亮二選手が、また、男子剣術で広田一成選手が金メダルを獲得した。さらに日本選手8人はよく健闘して、全員入賞(6位以内)、銀メダル6個、銅メダル4個、メダル合計12個を獲得し、参加41カ国・地域のなかで中国に次ぐ優秀な成績を収めた。

この大会は、1985年に設立したIWF準備委員会が過去3回行ってきた「国際武術招待競技大会」(85年中国・西安市、86年天津市、88年杭州市)の成果をもとに十分な準備期間を設けて、昨年10月のIWF正式設立に伴って開催された。

この大会が五大大陸の主要国を網羅した公式な世界選手権大会として実施され、大きな成功を収めたことにより、武術太極拳は名実とも国際スポーツとしての地位を確立したことになる。

大会の成績では中国、日本をはじめとするアジア勢が優勢を占めた。これは87年に設立したアジア武術連盟(WFA)が、同年横浜で第1回アジア武術選手権大会を開催し、89年香港で第2回選手権大会を、また昨年北京での第11回アジア競技大会で武術太極拳が正式実施競技として行われるなど、85年以降毎年実施された国際大会に連動して、選手強化を図ってきた成果が表われたものと言える。

初の世界選手権で優秀な成績を収めたことにより、第11回広島アジア競技大会での正式実施競技化に向けて大きな弾みをつけたことは誠に喜ばしい。

#### 男女16種目で熱戦

大会は10月12～14日に正式競技種目として8種目、男女計16種目が実施された(太極拳、南拳、長拳、剣術、刀術、槍術、棍術および三種目総合=拳術の太極拳、南拳、長拳から一種目、短器械の剣術・刀術から一種目、長器械の槍術・棍術から一種目をエントリーして三種目の合計得点を競う)。

なお、これ以外の伝統武術は公開演技(デモンストラーション)として、正式競技と併行して実施された。

これらの競技と公開演技は型演技の競技

(套路競技)で、29の国・地域から203人の男女選手が出場した。

15～16日には、対抗性の格闘技(散打)が公開競技として実施され、52kg級、56kg級、60kg級、65kg級、70kg級、75kg級、80kg級、85kg級、90kg級、90kg超級の10階級に23の国・地域から83人の選手(男子のみ)が出場した。日本は散打の公開競技にはエントリーしなかった。

### 高レベルのアジア勢

#### 1)選手強化の成果

長拳、器械種目、南拳でフィリピンとマレーシアの健闘が注目された。フィリピンは政府の強化費援助のもとで5年前から中国の一流コーチ陣を継続して招請し、集中的な強化訓練を行ってきた。マレーシアも3年前から同様の強化策を採用しており、両国は今大会でその成果を十分に発揮した。

日本は、3月の全日本競技大会で選抜指定された強化選手を対象に6月に強化合宿を

#### 各国・地域別成績一覧

| 順位 | 国名     |    | 金 | 銀 | 銅 | 4位 | 5位 | 6位 | 金・銀・銅<br>メダル数 |
|----|--------|----|---|---|---|----|----|----|---------------|
| 1  | 中国     | 男子 | 4 | 1 |   |    |    |    | 13            |
|    |        | 女子 | 8 |   |   |    |    |    |               |
| 2  | 日本     | 男子 | 2 | 4 | 2 | 2  |    |    | 12            |
|    |        | 女子 | 2 | 2 | 2 | 4  | 2  |    |               |
| 3  | 香港     | 男子 | 1 |   |   | 1  | 1  |    | 9             |
|    |        | 女子 | 5 | 3 | 1 | 1  |    |    |               |
| 4  | フィリピン  | 男子 | 1 | 1 | 2 | 2  | 2  | 2  | 5             |
|    |        | 女子 |   |   | 1 | 1  | 1  | 2  |               |
| 5  | マレーシア  | 男子 |   |   | 3 | 1  | 1  | 3  | 4             |
|    |        | 女子 |   |   | 1 |    |    | 1  |               |
| 6  | アメリカ   | 男子 |   | 1 | 1 | 1  | 2  | 2  | 2             |
|    |        | 女子 |   |   |   |    | 1  | 1  |               |
| 7  | 中華台北   | 男子 |   |   |   |    |    |    | 2             |
|    |        | 女子 | 1 | 1 | 1 | 1  | 2  |    |               |
| 8  | マカオ    | 男子 |   | 1 |   | 1  |    |    | 1             |
|    |        | 女子 |   |   |   |    |    |    |               |
| 9  | シンガポール | 男子 |   |   |   |    | 1  |    |               |
|    |        | 女子 |   |   |   |    |    | 3  |               |
| 10 | ソ連     | 男子 |   |   |   |    |    | 1  |               |
|    |        | 女子 |   |   |   |    |    | 1  |               |
| 11 | 韓国     | 男子 |   |   |   | 1  |    |    |               |
|    |        | 女子 |   |   |   |    |    |    |               |
| 12 | フランス   | 男子 |   |   |   |    | 1  |    |               |
|    |        | 女子 |   |   |   |    |    |    |               |
| 13 | ネパール   | 男子 |   |   |   |    |    |    |               |
|    |        | 女子 |   |   |   |    | 1  |    |               |
|    |        |    |   |   |   |    |    |    | 48            |



日本選手団 会場の首都体育館前にて

施し、これらの強化選手の中から8月の全日本選手権で日本代表の最終選考を行った。2つの全国大会と強化合宿を経て代表選抜を行ったことが効を奏したと言える。

#### 2)規定套路の成果

太極拳、南拳、長拳、器械の7種目に国際競技用規定套路(規定演技型)が制定されている。昨年の北京アジア競技大会では、参加全選手が規定套路で競技を行った。今大会では規定套路が十分に定着していない国・地域を配慮して、競技は規定套路または自選套路(自由演技型)のいずれかで演技しても良いルールで行われた。

各種目の競技は日本をはじめアジア各国の選手は全員規定套路で臨み、アジア以外の選手は7～8割程度が規定套路、2～3割の選手が自選套路で出場した。

自選套路で出場した欧米の選手のなかには優秀な選手が少なかった。これらの選手は自分の技術と特徴に合わせて得意な動作を組み合わせた自選演技を行い、スピーディではつらつとした動きが観衆の注目を集めた。これに対して規定套路の選手は、すべて定められた順序の動作を行うなかで、動作の正確さ、スピード、パワー、リズムと表現力を競うことに全精力を集中して競技を行った。

自選套路の選手の演技は、一見、自由で華やかであっても武術の基本動作の訓練が不徹底で、荒さが目立つ結果となり、規定套路の

### ◆第1回世界武術選手権大会参加国・地域◆

1. アルジェリア 2. アルゼンチン 3. ベルギー 4. ブラジル 5. イギリス
6. ブルガリア 7. カナダ 8. 中国 9. 中華台北 10. コンゴ 11. 朝鮮 12. フィンランド
13. フランス 14. ガボン 15. ドイツ 16. 香港 17. インド 18. イラン
19. イタリア 20. 日本 21. 韓国 22. リビア 23. マカオ 24. マレーシア 25. モンゴル
26. ネパール 27. オランダ 28. ノルウェー 29. ペルー 30. フィリピン
31. ポーランド 32. ルーマニア 33. シンガポール 34. スペイン 35. スウェーデン
36. タイ 37. アメリカ 38. ソ連 39. ベトナム 40. ユーゴスラビア 41. エジプト

優秀な演技には及ばない成績となった。

#### 若手選手の育成強化を

同大会では、規定套路と自選套路が対比された結果、世界のレベルアップを促進するうえで、規定套路の優位性が証明されたことになったと言えよう。

太極拳では、目下のところ日本のライバルは中国に限られている。今大会では、女子太極拳では中国を超えることができなかったが、今後、若手の選手層の養成と強化が急務である。

長拳、器械類では、ソ連選手はすべて自選套路で出場したが、すでに十分な実力を備えており、規定套路に取り組みば短期間で武術強国となる潜在力を感じさせた。

アメリカは約半数が自選套路で出場し、規

定套路の選手はまだ規定動作に対する熟練度が及ばず、十分な実力を発揮しなかったが、恵まれた体力と瞬発力は日本にとって、今後大きな脅威である。

第1回世界選手権大会は多くの参加国と出場選手を得て大きな成功と収めた。内容的にも、中国が中心となり、日本が積極的に関与して制定された規定套路を主体に競技が実施され、武術が競技スポーツとしての実質を備えて大いに発展しつつあることが証明された。

1993年にマレーシアのクアラ Lumpur で開催される第2回世界選手権大会には、更に多くの国々が集い、レベルアップした技術が競われることになる。日本は、今大会で好成績を挙げた成果を基礎にして、選手強化の課題に取り組んで、世界の強敵に備えなければならない。

## 公認審判員講習会 来年2月に東京、西宮で実施

日本連盟公認審判員（1～3級）の講習会・認定試験は、新規受講者および昇級受講者（現在2級または3級の資格者で上級資格の取得希望者）を対象にして、下記の2会場で実施される。受講申込の案内は11月中に、加盟団体に送付される予定。

なお、審判員の現級の更新手続に関する案内も11月中に、加盟団体および本人宛に送付

される。

1992年公認審判員（新規・昇級）講習会  
2月8日（土）～9日（日）＝西宮市・兵庫県立  
総合体育館

2月15日（土）～16日（日）＝東京・国立オ  
リンピック青少年セ  
ンター

# 第1回世界選手権大会を振り返って

## ——日本選手団役員的印象談——

第1回世界選手権大会で好成績を収めた日本選手団の監督(岡崎温), ヘッドコーチ(三代正廣), コーチ(川崎雅雄, 加藤修三)の各氏は, 日本選手の健闘と今後の課題について次のように語った。

### ◆強化合宿の成果◆

3月の全日本競技大会, 6月の強化合宿, 8月の全日本選手権での最終選抜が良好に作用して, ベストメンバーを選抜して大会に臨めた。強化合宿の効果は大きい。選手諸君が良く健闘し、実力を発揮して全員入賞したことに敬意を表したい。

選手は国内で代表選抜に勝ち抜くために全精力を集中し, コンディションのピークを8月に設定している。代表選抜後, 大会までの期間内に, 一定の休息を取ったうえで体力と精神面の再調整をしなければならないが, 各選手とも職業を持ち, 条件が異なるので, コーチとしてはコンディショニング管理が難しく, 今後の課題である。

### ◆精神集中と調整能力◆

過去の国際大会では, 日本選手はプレッシャーで失敗するケースが多く, 特に長拳三種総合では三種目中のどれかに失敗して順位を下げた。今大会では, 1~2種目での小さなミスを除き, 全体として大きな失敗がなかったのは成長といえる。

過度の精神的な緊張で失敗しないように, コーチは選手がリラックスするよう努めた。この結果, 全員が失敗なく演技できた。しかし, より優れた演技を行うためには, 競技中に適度な緊張を伴う精神集中が求められる。この点で, 日本選手はまだ中国, 香港の選手

に及ばない。選手が現地入りしてから競技開始までの時間のなかで, 心身両面の調整能力を養うことが求められる。

### ◆基礎体力とパワーアップの課題◆

長拳, 南拳, 器械では, 日本選手は技術面で中国のトップ選手との差を縮めてきた。動作の正確さでは他の外国勢より優れていると言える。しかしながら, 基礎体力とパワーは外国勢力と比べて見劣りする。

幼年期から専門的な訓練を受けてきた中国, 香港の選手はもとより, フィリピン, マレーシアの若い選手, 欧米の黒人選手に比べて明らかに体力, パワーが劣り, 日本選手の最大の問題である。

満場の観客を魅了する程の表現力を発揮するためには, 十分な基礎体力と鍛え上げられたパワー, スピードが不可欠である。

外国勢が規定套路の動作に習熟するのは, 一定の基礎があれば比較的短期間に解決できる。しかし, 日本の基礎体力の課題は短期では解決できない問題であり, 計画性を持って本格的に取り組まなければならない。



開会式に集う各国代表選手団

# 第1回世界選手権大会を振り返って

## ——日本選手団役員的印象談——

第1回世界選手権大会で好成績を収めた日本選手団の監督(岡崎温), ヘッドコーチ(三代正廣), コーチ(川崎雅雄, 加藤修三)の各氏は, 日本選手の健闘と今後の課題について次のように語った。

### ◆強化合宿の成果◆

3月の全日本競技大会, 6月の強化合宿, 8月の全日本選手権での最終選抜が良好に作用して, ベストメンバーを選抜して大会に臨めた。強化合宿の効果は大きい。選手諸君が良く健闘し、実力を発揮して全員入賞したことに敬意を表したい。

選手は国内で代表選抜に勝ち抜くために全精力を集中し, コンディションのピークを8月に設定している。代表選抜後, 大会までの期間内に, 一定の休息を取ったうえで体力と精神面の再調整をしなければならないが, 各選手とも職業を持ち, 条件が異なるので, コーチとしてはコンディショニング管理が難しく, 今後の課題である。

### ◆精神集中と調整能力◆

過去の国際大会では, 日本選手はプレッシャーで失敗するケースが多く, 特に長拳三種総合では三種目中のどれかに失敗して順位を下げた。今大会では, 1~2種目で小さなミスを除き, 全体として大きな失敗がなかったのは成長といえる。

過度の精神的な緊張で失敗しないように, コーチは選手がリラックスするよう努めた。この結果, 全員が失敗なく演技できた。しかし, より優れた演技を行うためには, 競技中に適度な緊張を伴う精神集中が求められる。この点で, 日本選手はまだ中国, 香港の選手

に及ばない。選手が現地入りしてから競技開始までの時間のなかで, 心身両面の調整能力を養うことが求められる。

### ◆基礎体力とパワーアップの課題◆

長拳, 南拳, 器械では, 日本選手は技術面で中国のトップ選手との差を縮めてきた。動作の正確さでは他の外国勢より優れていると言える。しかしながら, 基礎体力とパワーは外国勢力と比べて見劣りする。

幼年期から専門的な訓練を受けてきた中国, 香港の選手はもとより, フィリピン, マレーシアの若い選手, 欧米の黒人選手に比べて明らかに体力, パワーが劣り, 日本選手の最大の問題である。

満場の観客を魅了する程の表現力を発揮するためには, 十分な基礎体力と鍛え上げられたパワー, スピードが不可欠である。

外国勢が規定套路の動作に習熟するのは, 一定の基礎があれば比較的短期間に解決できる。しかし, 日本の基礎体力の課題は短期では解決できない問題であり, 計画性を持って本格的に取り組まなければならない。



開会式に集う各国代表選手団